

第1回総合戦略推進委員会

要点記録

日時：平成28年6月24日（金）

午後6時30分～9時18分

会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 副市長あいさつ
- 4 委員及び事務局自己紹介
- 5 議題
 - ①委員長、副委員長の選出について
 - ②平成27年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について（資料1, 2）
 - ③地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金の実績報告及び評価について（資料3, 4）
- 6 その他
- 7 閉会

配布資料

- ・資料1 総合戦略の基本目標における数値目標の達成度
 - ・資料2 総合戦略における具体的な施策 進捗状況一覧
 - ・資料3 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）事業経費内訳報告書
 - ・資料4 昭島市プレミアム付き商品券発行事業 事業実施・分析報告
- 机上配布
- ・次第
 - ・昭島市総合戦略庁内推進委員会要綱
 - ・昭島市総合戦略推進委員会委員名簿

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）

副委員長・・・飯田哲也（立川公共職業安定所）

委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、沼崎明大（多摩信用金庫）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、樽松洋（公募市民）、中尾一博（公募市民）
欠席（齋藤久未（J:COM多摩））

事務局・・・山下企画部長、萩原企画政策課長、塩野企画調整担当係長

1. 開会

事務局・・・ ただいまより、第1回総合戦略推進委員会を開催する。

2. 委嘱状交付

○早川副市長より委員に対し委嘱状交付（省略）

※委員の任期は平成28年6月24日から平成30年3月31日まで

3. 副市長あいさつ

早川副市長・・・ 本日、北川市長は公務により出席がかなわず、市長に代わり、私から一言ご挨拶をさせていただきます。

この度は、本市の総合戦略推進委員会委員をお引き受けいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、国においては、「人口減少、超高齢社会」の克服に向け、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成26年12月に閣議決定いたし、その取組を推進しているところである。本市においても、本年2月に、平成31年度までの計画期間として、「昭島市総合戦略」を策定した。この計画策定に当たっては、本委員会にもご参画をいただいている「産・学・官・金・労・言」の多分野にわたる皆様、また、市民公募委員の皆様に関連なご議論をいただき、また、市議会に対しても十分な協議をしたうえで策定した。

また、本市は市民と行政の共通の目標である第五次総合基本計画に基づき、その目指すべき将来都市像である「ともにつくる 未来につなぐ 元気都市あきしま」の実現に向けて、精力的にまちづくりを進めている。本年度はこの10年間の計画の後半期に当たり大きな位置付けの年となる。この計画と同様に、総合戦略の推進に当たっても、総合基本計画との整合を図り、戦略的、一体的に施策の展開を図ることを議会をはじめ、市民の皆様にも申し上げている。

本委員会においては総合戦略に掲げたK P I や目標ごとに設定した数値目標の達成状況を確認いただき、P D C Aサイクルの視点に立った評価・検証に、委員皆様のお力添えをお願い申し上げます。

結びとなるが、お忙しい中、大変なお願いをさせていただいたが、本推進委員会での皆様の活発なご議論をお願いし、私からのご挨拶とさせていただきます。

4. 委員及び事務局自己紹介

○委員自己紹介及び事務局自己紹介

○公務のため副市長退席

○事務局より配布資料の確認

○委員会は原則公開制とする（※ただし個人情報保護の必要性や委員会での公正適正な意思決定に著しい支障があると認められ場合はこの限りでない）。委員会は会議録を作成し公表する。

5. 議題

①委員長及び副委員長の選出について

○事務局案により、委員長には松本委員、副委員長には飯田委員が選出され一同の承認を得た。

事務局・・・ 委員長、副委員長には席を移動していただき、着任のあいさつをお願いしたい。

委員長・・・ 昨年度の策定でも委員長を務めた。策定に関わったので、評価についても最後まで責任をもって進めたいと思うので、よろしくお願いしたい。

副委員長・・・ P D C Aサイクルということでしっかりいろんな視点でチェックしたい。よろしくお願いしたい。

②平成27年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について

委員長・・・ 今回の地方創生の大きなキーとなっているのは具体的な数値目標を掲げて、それが達成出来ているかどうか。達成できているかも大切だが、行っていることが有効な事なのか見極めながら、修正したり新たに付け加えたりしていき、作っただけではない事が大きなポイントだと思う。皆様の評価またはアドバイスが新し

い施策の修正に繋がるので忌憚のないご意見をいただきたい。

○事務局より評価検証の進め方について説明。

○事務局より資料1「総合戦略の基本目標における数値目標の達成度」の説明

委員長・・・各事業の達成度というよりは、最終的な目標である雇用を増やす、住民を増やす、昭島に移り住む人の数を増やすという最終的な目標の数値になっている。そういう意味では一番達成したい数値である。逆に、行っている事業との関連性や繋がりが見えにくい数値でもあると思う。平成27年度の国勢調査の結果がまだ出ていないので数字としては出せない。簡単に評価することは難しいと思うが、感想や質問でも構わないのでそれからまず話し合っていきたい。

沼崎委員・・・市民意識調査だが、どのような世代に意識調査を行っているのか。

事務局・・・男性1,000人、女性1,000人、計2,000人無作為抽出で行っている。調査対象については、満16歳以上が対象。回答者は均等になるようにしているが、この部分の回答結果としては、男女別では男性10代の回答者数が13、20代が23、30代が48、40代が60、50代が46、60代が88、70代以上が137、女性については10代が17、20代が34、30代が71、40代が84、50代が72、60代が101、70代以上が104という件数で回答がされている。年代別でみると、10代から20代にかけての若い世代では、比較的これからも住み続けたいという回答が多い。

委員長・・・この質問はどういう意図か。

沼崎委員・・・年代別に分析ができれば、今後の施策の影響が把握できると考える。

事務局・・・これとは別の視点で、昭島市の愛着度という部分の調査も行った。愛着度については、8割程度の方が昭島市を故郷と思って愛着を持っている。愛着をあまり持っていない方の理由については、昭島市に住んでいる期間が短い、または日中仕事に出ていて昭島市に滞在している時間数が短いという方が大半を占めていた。このような調査結果も出ているので併せて参考にしていただきたい。

勝見委員・・・資料1の市内で就業する者のところで、高齢な方ほど市内従業者数の割合が多いが、これは農業や自営業が大半を占めているからなのか。

事務局・・・年代別の就業者について、就業先がどこの地域になるのかで見ている。70代や80代の高齢の方で就業している方については、市内のシルバー人材センターや農業、自営業を続けている方が大半を占めている。市域外で就労している人が少ない結果になっている。

委員長・・・高齢で従業している方が少ないので、割合は高くなってしまう。

30代から50代くらいの男性は市内従業者が2割程度だが、女性の市内従業者は約5割となっている。納得できる結果である。

勝見委員・・・市内で働く場所があると通勤時間が短くて済み、子育てに積極的に関わる時間が出来るのかと思う。

事務局・・・そのような意味でも市内就業者という所に着目した目標設定にしている。

勝見委員・・・27年調査の国勢調査の数字は、いつごろ出るのか。

事務局・・・27年度の速報値として人口のみが公表されている。就業人口などの結果はもう少ししばらくかかる。年度末ぐらいに開催する委員会の際に、公表されていれば比較したい。基本目標2の市内への来訪者数の増加についても、RESASの数値を使用しているので、こちらも更新されていれば比較したい。データが揃えば、数値的な比較を示していきたい。

委員長・・・基本目標2の住み続けたいということについても、若干プラスになっているが、あまり変化はない。来訪者数は比較する数値がないので何とも言えないが、基本目標3の婚姻数は少し増えている。出生者数は26年度と変わらず。大きく

変わっているのは保育所と学童クラブの待機児童数が大幅に解消されている。転入者数が平成27年度に増加しているが、何か理由は考えられるのか。

事務局・・・全てがその要因とは言えないが、開発行為に伴い、戸建住宅やマンションが増えたことは大きく影響していると認識している。

樽松委員・・・今の質問に関連してだが、基本目標4の転入者数、転出者数の資料について平成25年度から27年度のデータしか掲載されていないが、22年度の数字はわからないのか。

事務局・・・今回示したのは過去3ケ年での比較だが、過去のデータは市民課で継続的に取っているので、後日で良ければ、お示しするのは可能である。

樽松委員・・・基本目標1の資料が22年度なので、その他の資料も22年度からみていかなければ比較ができないのではないか。

委員長・・・大きな数字なので長期的なトレンドで見えていかないといけない。マンションが増えたりなどの要因で一時的な上下はあると思う。長期的に見た時に上昇しているのか、減少しているが緩やかなのかというように数字は見えていかなければならない。これだけを見て評価をするのは難しいと思う。少なくとも、このような指標で常に見ていくというのは、指標としては間違っていないのではないかと思う。

データも整理されているので、国勢調査を待たないと見られないというのは、これからの時代少し変わってくるのではないかと。市もなるべく生きた数値を掴む努力をしていかないと、指標を設定しても評価が出来ない事になりかねない。その点は今後色々な工夫をしていく必要があると思う。もう少し数字が出てから評価をしたいという点と、もう少し長期的に、3ケ年ではなくて、5ケ年位の数値で評価をした方が良いのかもしれない。次回新しい数字が出た際は、それを含めて見てみるのも良いと思うので、ご検討いただきたい。

事務局・・・次回の委員会では、遡って資料の作成をしたい。

委員長・・・国勢調査の期間の5年というスパンで見られるのはいい。各指標を横並びで見られると良いので、平成22年から27年の変化をいろんな形の数字で次回は見ていきたい。

飯田委員・・・28年度の待機児童数解消の取組や達成見込みについてはいかがか。

事務局・・・平成28年4月からオープンした2か所の保育園等については、反映されていない数字である。園舎の増改築による定員増を進めている。学童クラブの待機児童の解消についても、28年度中でゼロを目指して取組を進めている。転入者等や申込状況によっては、若干今の数値より動く場合はあるが、この総合戦略とは別に子ども子育て支援事業計画を策定して、数値についてはゼロを目指した取組を進めているので、こちらについては限りなくゼロに近づくだらうという見込みを立てている。

委員長・・・こちら22年からの推移も見てみたい。

○事務局より資料2「総合戦略における具体的な施策 進捗状況一覧」について説明

樽松委員・・・ネーミングライツパートナーの目標が2社となっているが、毎年2社増やすということか。

事務局・・・維持していくことを前提にしている。新たな改修等がないと募集が行えない。31年度までの計画期間内では維持していく考えでいるが、今後、機会があれば増やしていきたいと考えている。

中尾委員・・・策定の事に遡ってしまうかもしれないが、基本目標1の数値目標「市内居住者の市内従業者数の増加を目指すとはどの程度の増加を目指しているのか。何%と

か。基準がわからないと評価しにくい。具体的な施策のK P I と基本目標の数値目標の関連性が見えてこない。

また、中核企業と中小企業の数値目標の配分はどうするのか。28年度に策定される昭島市産業振興計画で示されるかと思うが、そのあたりはどうか。

委員長・・・ なかなか難しいが、最終的には子どもを増やすとか昭島市在住の人口を増やす事に寄与する事業を行っている。事業それぞれのK P I がきちんと達成できているかということが数値として表れているかと思うが、これを行ったことにより、それぞれの事業にどれだけ寄与したかは、この表からはわかりにくいのが現実だと思う。類推するしかないが、個別の事業を評価しても、評価は出来ないと思う。個々の事業がどのような関係にあるのかを意識しながら、評価していくしかないのかと思う。

例えば、たま工業交流展の参加企業数が減少していることを、内容がマンネリ化しているからとか、そういうことだけではない。企業の行動、創業者の増減と繋がっているかもしれない。それぞれの事業の繋がりを見ながら評価をしないと、その事業が有効だったのか、評価がしにくい。想像の範囲を超えない部分があるかもしれないが、委員の皆様には事業を実施するに当たっての留意点などの意見をいただいた方が良い。あまり小さな数字の変化に惑わされず、裏側にある大きな変化を類推し、想像力を働かせ、市に投げかけるのが良いかと思う。

中尾委員・・・ 中核企業と中小企業と市内従業者数の増加の関係について、どちらかに重点を置くのか、均等に増やすのか、市に考えはあるのか。

事務局・・・ 計画策定時にも安定した雇用の創出については、かなり時間を掛けて議論を行った。昭島市にはものづくり企業の中核となる企業があり、中小企業も点在しているような特色があるという中で議論が進められた。中核企業は雇用者数が多いが、一旦転出してしまうと、何千人という雇用が喪失してしまう。地域との連携を重ねる中でなるべく残ってもらい雇用を確保してもらおう。そういう視点で見てどんな取組があるのかを考え、いくつかの事業が挙げられた。一つひとつの事業を達成することによって、中核企業との連携ができ、達成することが出来るだろうと思う。

一方で、中小企業に対して中核企業と同じアクションを起こしてもなかなか難しい。中小企業と中核企業とは分けた施策展開を図っている。これらの事業を総じて展開することによって、安定的な中小企業事業者への支援、雇用を創出する取組になっている。大きないくつかの視点の中で個々の事業があり、総じて実施されることにより、基本目標の市内従業者数の増加を目指す。良い雇用環境があれば、そこに近いところで住む方も多くなると考えている。

中尾委員・・・ そういう視点で見ると、中小企業に関しては事業承継とか、中核企業は転出されると困るとか、そういう目で見えて評価をしていくというやり方が理解できた。

委員長・・・ 時間の関係もあるので③地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金の実績報告及び評価についてについてもあわせて進めていきたいので、事務局より説明を願いたい。

○事務局より「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業の創業支援、まちのにぎわい再創出事業」について説明

水野委員・・・ まちのにぎわい再創出事業については、総合戦略のK P I は7件となっているが、27年度の実績は5件で、予算額に達してしまったものである。

委員長・・・ 数字の違いというか予算の問題もあるので、これも数字の差にとらわれると本

質を見失うので、5件の補助金を使用した方がいた事実と相談が25件あった。これを生み出したことが事業としてどうだったのかということに評価をしなければいけない。どういう成果を残せたのか、現場にいた委員さんから感想をいただきたい。

沼崎委員・・・平成27年度の年度当初から行われた事業。まだ認知がされていない中で、これだけの相談件数があったことは評価できると思う。以前から行っている自治体で、人がなかなか集まらないというところもある中で、初年度から成果が残せたのは良かったと思う。25名の相談者の中から5名が創業に至ったことは、創業率から考えても成果は残せている。相談に来た方を市役所の方がしっかりフォローしてくれた。個別相談等もあるので、連携をしっかりとっていけば、平成28年度以降も件数が伸びていくのではないかなと思う。

委員長・・・創業者を増やそう、または創業者の利用できる場所を増やそうという事業だった。ある程度評価ができると思うがいかがか。

勝見委員・・・今回創業した5件が継続的に経営が成り立っているのかも見ていく必要があると思う。ここがゴールではなくスタートである。産業活性課の方も引き続き起業した方を見守っていくということですね。

事務局・・・補助金等とは結びついてはいないが、安定的、継続的に仕事を進めていくということで関わりを持っていきたいと考えている。この事業は国の補助金は終了したが、本年度も継続して実施している。更に違う展開も考えながら、創業支援の窓口サービスの充実を図っていきたい。既にスタートしている部分もある。

委員長・・・ワンストップ相談窓口は、商工会議所などではなく、昭島市役所で相談できることが行きやすいという話を聞いた。そういう特徴もあるかもしれない。

今までは創業者に対する支援はあまりなかったのではないかな。今まで創業はしたいがどうしたらいいかわからなかった方々が、相談窓口や利用できる支援策、補助金などが生まれることによって刺激されて創業者が増えていることは大きな成果ではないかな。

達成できなかった数字ばかりを見るのではなく、事業承継についてはK P Iは10社だが平成27年度は26社参加している。事業承継に関する興味関心などは想像以上に中小企業の方にあるという捉え方もできる。ニーズが有り、望んでいると思われる。

都市農業支援については、K P Iを達成できているが大きく上回っているわけでもないが、農業特産品は出展数が前年を上回った。

沼崎委員・・・就職フェアIn昭島や青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業だが、就職希望参加者数で目標値を捉えているが、実際に参加して、その後に就職に繋がったのか、追跡調査はしているのか。

飯田委員・・・就職の実績については、採用の採否結果が経過した数カ月後に、ハローワークより市役所に情報提供している。

委員長・・・就職フェアは目標値は200人なので平成27年度実績は196人のためK P Iには達していないことになるが、平成26年の実績の80人からすると倍増している。これはどう評価したら良いか。

飯田委員・・・就職面接会と呼んでいるが、参加企業の求人の中身が就職者にニーズにどれだけあっているかが第一。若干、当日の天気等にも影響される。幾つかの要因で27年度は実績が伸びている。

参考までに、リーマンショック以降、22年4月以降の求職者については減少傾向は変わっていない。その中で196名参加があるということは実績が上がってい

るのではないか。

委員長・・・ 26年度と27年度では方法が変更になっているのか。

飯田委員・・・ 同じである。広報にも力を入れている。ハローワーク単体ではなく、市役所その他機関の協力を得て尽力いただいている。

委員長・・・ 市とハローワークが連携をして、今まで以上の実績を上げているという解釈で良いのか。

飯田委員・・・ そうである。

委員長・・・ 青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業は厳しい状況になっているが、理由は何かあるのか。

事務局・・・ 開催に当たり、急遽開催形式や場所等の変更が生じてしまったため、学生への周知が不十分になってしまったという反省点があると聞いている。今後については、学生への周知は時間的な余裕をもって進めていきたいとのことである。

委員長・・・ 基本目標1.「安定した雇用を創出する」については、一通り意見が出たが他に何かあるか。

条件があり達成できなかったことがあるようだが、少なくとも創業支援や事業承継などの対策は、今まで行っていなかったもので、需要を掘り起こして参加を生み出している。

一方では、既存の取組について、例えば産業まつりやたま工業交流展などは、今後やり方を変えていくようなことが必要になってくるということが見えてきたかと思う。

それでは、次に、基本目標2について事務局より説明を願いたい。

○事務局より資料2の「Ⅱ・昭島へ新しい人の流れをつくる」について説明。

委員長・・・ 総合戦略を策定した時に、「あきしまの水」はほかのまちには無い大きな資源であり、一つの大きなポイントは水だということである、ということを中心に検討した。それを中心に観光も含めてPRしていくという方針であった。

具体的な施策としてこのようなマップであったり、水に関する商品開発に繋がった。新しい事に挑戦することは大変なことで、KPIが達成できていないところもあるが、0から1にするという作業をしているので、それをどう評価するのか質問も含めて意見をいただきたい。

水野委員・・・ 昭島ブランド構築・推進事業については、冊子がいろいろある通り、市内の頑張っている事業者が中心となって作ったと聞いている。評価という点でいくと、これから強く推し進めていかなければならないと感じている。商工会としても、市内に1,500社以上が会員としてあるので、市と連携してこのブランドの推進と具体的な商品開発等について、理事会等の席で説明をしていければ効果があるのではないかと、商工会としても期待したい事業である。

委員長・・・ 実際に水を前面に押し出す施策というのは、事業者から見たら、どのような反応なのか。それをひとつのチャンスとして見るのか、あまり自分達は関係ないものと捉えているのか。

水野委員・・・ 「夢つなぎ人」の冊子に出てくる市内の化粧品会社の方は、昭島の水を使用した化粧品の開発をしていて、いろいろな補助金を使って熱心に動かれている。その隣の方は昭島駅前で蕎麦屋を営んでいる方、藍染をしている方などが掲載されているが、水に関連した事業は数多くあり、関心もある。全体には行き渡っていないが一部の方には根強い関心がある。期待している。

事務局・・・ この冊子には、どんな製品や商品に対してこの昭島の水を使用して良い製品を

作っているかの紹介もあるが、このような中で着実に昭島の水を使用した、違う職種の繋がりを生み出す事も然り、昭島市としてのブランド化、売り出していく上でのブランディングを進めていく事業として今後も展開していく必要があると考える。産業活性課とも連携しながら進めていきたいと思う。

沼崎委員・・・ 観光マップの作成で102施設に設置したとのことだが、どのような所に設置されたのか。

事務局・・・ 市内の公共施設、市立会館や、総合スポーツセンター、フォレスト・イン昭和館、アウトドアヴィレッジ、モリタウン、くじらロード商店会、三多摩市場、市内の郵便局、駅、農協、家具の博物館、観光案内所、昭島ガス、八王子市、日野市、羽村市、福生市、立川市、東大和市、岩泉町他、102施設となっている。

沼崎委員・・・ 市外の方にもしっかりと設置されたということですね。

委員長・・・ 市民と協働し作ったマップだが、置いたことは一つの達成だが、その後の効果だ。これを見て実際に人が来てくれるかの評価は、まだ見えてこないと思うが、その辺を計る必要がある。何処に置いたものが手に取ってもらえたのか調べることはできるのではないか。そうすると公共施設の方が良いのか、駅が良いのか、または商業施設が良いのか評価ができると思う。その調査はしてみるべきである。

また、市の報告書というのは意外と市民の方の目に触れないのだが、書店で販売すると意外と売れる。今まで市のものを扱っていなかったところでも、このマップであれば、違う販路というか、手に渡りやすいようなこともでてくるのかもしれない。何処に置くかの工夫も引き続き調べながら行っていけば良いのではないか。

勝見委員・・・ 観光マップの大きな地図だが、施設などよりも交差点の方が目立っている。新たに作成することがあれば工夫した方が良い。

事務局・・・ 今のご意見については、担当課に伝えたい。

委員長・・・ 水については、最近水道水をペットボトルで売るところも多いが、水を活用した商品開発をする人達にスポットを当てるといのはあまりない取組である。こういったものは昭島独自であるので、商工会とも連携し更に推し進めていただきたい。

続いて基本目標3について事務局より説明を願いたい。

○事務局より資料2の「Ⅲ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について説明

委員長・・・ 新規のものについては初めてということもあり、KPIを達成できていないところもあるが、この数字をどう見るのか。

多子世帯保育所等利用負担軽減補助については目標が達成できなかった理由はどのように分析しているのか。

事務局・・・ 国の平成26年度補正予算の事業であったため、交付決定が3月となり、事務手続きの調整などに一定の時間を要してしまったために、4月当初からスタートすることが出来ず、7月からのスタートになったことが要因の一つである。今年度は4月当初より実施してるので円滑に進むと考えている。

樽松委員・・・ 一時預かりで4,500人の需要があるのか。この目標値で良いのか。一時預かりとは、親がどこかに出かけるときに預かるということだと思うが。

事務局・・・ 病後児保育なども含んでおり、緊急対応もある。これまでの実績も鑑みKPIとして設定した数値である。今後、多子世帯を増やしていこうという視点もあるので実績よりも多い数字に設定した。

樽松委員・・・ それならば、一時預かりを増やすのではなく、保育所を増設することが必要であり、一時預かりを増やすことが、多子世帯を増やすことにつながるのか。

事務局・・・ 保育所の増設は行っており、28年4月から2園オープンし、既存の施設も改修などを実施し定員を増やしている。多子世帯の利用負担軽減補助は第2子・第3子以降の利用負担補助制度であるので、保育所入所定員を圧迫しているとか、待機児童数に影響を与えているということではなく、保育所増設とは別問題だと認識している。

委員長・・・ これは、既にあるものに補助をするということなので、病後児保育や一時預かりの利用者がいることが前提。利用している保護者に対し、負担額の部分も少し補助して、その家庭の負担を少し軽減するような施策である。

樽松委員・・・ それならば、もっと、需要があったのに、行政のやり方が悪かったから少なかったのではないかと思う。実際に4,000人の需要があったのか、なかったのか知りたい。

事務局・・・ この部分については、一時預かりなど、費用が掛かることがネックで預けることを躊躇している方々にも利用していただくという、預けやすい環境を作り、掘り起こしも含めた4,500人というKPIを設定した。

委員長・・・ 達成できなかった理由は、事業期間が短かったことと、周知が遅れて知れ渡っていないことがあるのであろう。周知が進み今年度どのくらいの実績が出るか。ここで達成が出来ないとしたら、指摘があった通りにニーズがそこまでないのかもしれない。今年度の結果を見てみないと、正確には判断は出来ないと思う。それだけ短い期間だったという条件を勘案しないと評価は出来ないと思う。

中尾委員・・・ 付け加えると、市内には伝統のある地区と新しい地区があるが、人口データを分析したところ古い家庭の方が年少者が多い傾向があり、高齢化しているのではなく、世代交代になっている。そこから先は調べてはいないが、地域で育てるという環境があると、多子世帯、子供が多くなる可能性があるのではないか。隣近所との関係が希薄な地域の世帯とは違うような気がする。利用負担軽減補助は効果があるとみている。

委員長・・・ コミュニティーで支えてあげられる人達と、都市型のサービスで、ある程度お金を払ってそれを満たすというのに分かれると思う。策定時もそのような議論になった。まだ昭島にはそういった昔ながらのコミュニティが残っている所があるので、それはそれで良いところだと思う。それは生かしていきたい。

利用が増えることは逆に都市型に移行していることだと思うがそれが良い事なのか悪い事なのかはなかなか判断しづらい部分ではある。ただ需要がある限りはそういったサービスをしていくのが行政の使命だと思うので、今年度の様子を見極めていきたい。他に何かあるか。

勝見委員・・・ まちコンの開催だが、30年度の実施だが。

水野委員・・・ 商工会が絡んで、かなり地元の商店の皆さんの協力が必要。その結果、結婚に結び付いたカップルもあるが、財源の問題とマンパワーがこの事業の大きなポイントとなり、厳しいものがある。

勝見委員・・・ 繋がるのであれば継続したほうが良いのではないか。昭島に住んでもらうことに繋げていく。

委員長・・・ 大規模なものを数年に1回開催するとか、小さくても毎年実施する方法もあるかと思う。

○事務局より妊婦健康管理支援事業について説明

委員長・・・ 妊娠・出産・育児の切れ目ない支援とあるが、それぞれの段階で、様々な支援が行き届くことが必要。そこでできたネットワークが出産、育児になった時も生かせることもあり、事業としては効果的なのではないか。これもKPIは達成出

来なかったので、開催日の工夫等をし、昨年度より参加者数を増やしていかないと税金をかけて行って良いのかと思われる。その辺は見ていきたい。

次に、基本目標4について説明を願いたい。

○事務局より資料2の「Ⅳ・時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について説明。

委員長・・・ 4番目の目標はいろいろな事業が入っている。基本目標4というのは、これまで検討してきた基本目標1から3までが乗る基盤のような目標である。地域のコミュニティをどのように守るのか。広い意味での環境という言葉があるが、地球環境、地域の環境というように、人とのコミュニティが入っている分野なので領域としてはかなり広い事業になっている。なかなか評価するのは難しいと思うが、いかがか。一見したところの印象と、どのように評価したら良いか、意見をいただきたい。

地域間連携などについては、これから力を入れていこうというところで、まだ達成できていない感じがする。他の自治体との連携なので、難易度は上がると思うが、そのあたりをもう少し力を入れていかないといけない。

市としては、地域連携について、これから力を入れていこうという考えか。

事務局・・・ 昭島市は水や緑の環境に恵まれ、それが財産になっている。奥多摩町と昭島市は、奥多摩湖ができた時からの繋がりがあるので、森林活動等を生かしながら、環境を視点とした取組を深めていきたいと考えている。また岩泉町との環境交流事業も、昨年度は新規事業として展開した。こちらについては、環境の部分と東日本大震災の復興状況も確認しながら交流を深めていくという事業なので、こちらについては更なる展開を図っていきたい。

委員長・・・ 市民委員のお二人は、奥多摩町と岩泉町との関係は知っていたか。何か繋がりはあるか。

中尾委員・・・ 知ってはいるが、深い繋がりはない。

委員長・・・ 連携していることは、市民も知っているのか。

中尾委員・・・ PRしてるので知っていると思う。

事務局・・・ 岩泉町においては友好都市を締結する前からの20年以上の繋がりがある。産業まつりや郷土芸能まつり、くじら祭もそうだが、様々なイベントにおいて岩泉町から物産品の販売や郷土芸能の披露などで参画をいただいている。そのようなことから市民の目に触れることがある。特に岩泉ヨーグルトや短角牛などが特産品だが、近年では周辺のスーパー等でも購入できる。そういったところで身近に感じられるかと思う。

委員長・・・ もう少しやってみないとわからなというところはあるが、地域連携の部分で観光での絡みもあった方がよいと思う。それぞれの事業の担当課が環境課や子ども育成課であるが、産業活性課が入っていたほうが良い。

商工会は奥多摩町との繋がりなどはないのか。

水野委員・・・ 商工会同士の連携はあるが、環境保全などでの繋がりはない。

委員長・・・ そういう意味では、庁内の部署間連携なども必要になってくるのではないか。商工会での繋がりがあれば、そちらの繋がりをもっと生かす方法もある。連携の広がり、タッチポイントを増やしていくことも考えられる。

あとは、概ねできていると感じられる。

沼崎委員・・・ 空き家対策はどのようなスケジュールになっているか。

事務局・・・ 空き家対策については、まず、空き家の実態を把握しなければならない。その

中で水道部と連携し、検針結果から把握に努めている。老朽化が進んでいるが空き家なのかという定義が難しい。具体的には進んでいないが、時代に見合った生活圏の形成という部分で、東京都においても空き家対策等も策定計画の中で先に位置付けているので、こちらについては位置づける項目として挙げた。今後の取組は検討を深める中で設定していきたい。各課との連携も取りながら対応を図っていききたい。

委員長・・・ どういうアウトプットを目指すのか、少し急いだ方が良いということは所管課に伝えた方が良いと思う。

一通り見てきたが、我々も初めての経験で、それなりに評価して検討してみたが、全体としてこのような事が言えるのではないかと、このようにした方がいいのではないかと、全体を通じた感想を一人ずついただきたい。

中尾委員・・・ 評価というのはなかなか難しい。項目をそれぞれ掘り起こして、バックにあるものはどうかというものを全員が共有して評価をしていくと、上手くいくのかと思った。

樽松委員・・・ 私達の仕事は、評価することだとは思いますが、あえて意見を言えば、市民に向けてだけのPRになっていると思う。昭島を有名にすることが一番だと思うので、市民だけではなく、外に向けていくべきだと思う。フリーペーパーのところに市民活動などを出して行って、昭島にあるんだということを知ってもらうことも必要だと思う。市民だけではなくて同時に外に向けて昭島に関心を持ってもらう活動も必要ではないか。

勝見委員・・・ 策定して、今年からやっとスタートだと改めて感じた。昨年度の段階で目標が達成していなくても、次の年、次の年へと繋げていく必要があるし、今までの産業まつりにしても、青少年フェスティバルもそうだが、今までやってきたから人が集まるだろうではなく、年々新しく変えて行って、より良いものにして行って、目標以上のものを達成できるように繋げていければと思う。

沼崎委員・・・ 冒頭で松本委員長がおしゃった通り、それぞれの事業の目標を達成して、最終的に達成したい目標にどう寄与するのがポイントである。経済環境とか政治的な環境が変わっていくと思うので、実態を捉えながらその時点で評価していく作業が大切になってくると思う。

水野委員・・・ 今回PDCAのC、チェックしているところだと思うが、チェックは次回のアクション、見直しをするためのチェックなので、この我々の検討内容が次年度になんらかの形でKPIの数値も変えていく可能性もある。例えば目標設定があまりにも出来ない目標ならば、一生懸命足掻いてもどうしようもないと思うのでその辺も感じながら、また次回考えたい。

飯田委員・・・ PDCAの難しさ、計画の立て方の難しさ、事務局を始め市役所の所管課の方が苦労しているところだと思う。PDCAのCの部分でどう検証をチェックしているかは多岐にわたるので、事務局もなかなか難しいと思う。進捗状況について別の視点で、累積的なところで簡単なコメント、情報が入っていると評価する側も評価しやすい。

PDCAも絶えず見直ししながら評価しながら次のアクションを起こすので、それでは細かいことを全てPDCAで、なおかつ全体の評価をどういう因果関係とか、寄与度というか、どこに重点を置くのかなど、最終的に評価の中で結びつけていくのか。個々のものは細かくできるが、全体を評価する時にどのようにもっていくのか、なかなか難しい部分があると思う。

委員長・・・ ひとつの評価として、当然KPIが設定されているが、0を1にする事業と1

を10にしたり、10を100にする事業では少し意味合いが変わる。たとえ達成できなくても、0を1にしたものについては、きちんと評価しなければならない。

出来ていないものに対するチェックは、税金を投入しているので無駄な事はせざるべく効率的にしなければならないが、良い影響がどのように繋がっていくのかのチェックも必要だと思う。上手くいっているものに注目して、それがどうしてそうなっているのかを導き出すことで他の事業に応用していく。ノウハウを共有していく必要がある。今回はどちらかというと達成していないものに関して注目したが、より成果が出たものに対する、メカニズム、因果関係をきちんと把握することが大切だと思う。

既存の事業であっても、今日話を聞いているとそれなりに工夫をしている。特に庁内だけではなくて、いろんな民間との連携をしているものについてはそれなりの成果が出ていると思う。意識して多様な主体とともに行う、市民や企業と共にすることを意識しているものについては、今までよりも成果が上がっていると思うのでそのようなことも意識したらどうか。

事務局・・・ 本日いただいたご意見は、27年度の実施で、特に国の交付金を受け実施したものについて、外部委員会の評価を報告する義務がある。また、報告書の形を整え、議会へも報告し、市民へも公表する。事前に委員の皆様には確認をお願いしたい。

平成28年度の実施についてはすでに始まっているので、今回いただいたご意見も踏まえ、28年度に生かしていきたいと考えている。今後は3月頃に28年度の実施についてPDCAの視点から評価ご意見をいただきたい。臨時的に開催する必要があるればご協力をお願いしたい。

○事務局より資料4「昭島市プレミアム付き商品券発行事業 事業実施・分析報告」の説明

委員長・・・ プレミア率が高くなればなるほど売れるものである。その分だけの効果もある。

どこまで税金を投入するのかという議論はあると思う。

ほかに意見等はあるか。

6. 閉会

委員長・・・以上をもって、第1回総合戦略推進委員会を終わりたい。